

看護臨床スーパービジョンの基礎モデルの開発

清水健史¹⁾ *、村上眞須美¹⁾、手塚祐美子¹⁾

1) 青森県立保健大学

Key Words ① 看護 ② スーパービジョン ③ 基礎モデル

I. はじめに

スーパービジョンは19世紀の終わりにアメリカでソーシャルワークの労働領域で開発され、その後、その対象領域を拡大してきた(木下 2008)。そして、現在では、職業的に他人とかかわる中で、その人がプロフェッショナルとして最も好ましいサービスを提供できるための指導及び援助の一方法と考えられている(深澤 2005)。

しかし、看護の領域では、これまで臨床看護師へのスーパービジョンの研究の蓄積は乏しく、早急に看護領域に適した新たな方法を築いていく必要がある。

スーパービジョンの機能については一般に、管理的機能、教育的機能、支持的機能の3つがあることが知られている(黒川 1996)。なかでも、支持的な機能は他の2つの機能の基盤であることから(村田 2010)、看護臨床スーパービジョンの基礎的な機能と成り得ると考えた。

II. 目的

本研究では、これまで明らかにされてきたスーパービジョンの支持的機能に焦点を当て、看護臨床スーパービジョンの基礎モデルの開発をめざし、モデルに必要な要素を抽出することを目的とした。

III. 研究方法

1. 対象者：看護師（一般科4名・精神科5名）9名
2. 研究期間：平成26年11月～平成27年3月
3. 方法：臨床現場で困難だと感じた場面に対してPAC（Personal Attitude Construct：個人別態度構造）分析（内藤 1997）を用いて構造を明らかにした。
4. PAC分析によって得られたインタビューのうち、カウンセリング効果があると考えられる内容を質的に分析した。
5. 倫理的配慮

研究の対象者に、研究の目的と方法、研究協力は自由意志であること、研究協力の拒否と途中での辞退の権利とそれに伴う不利益がないこと。プライバシーの保護と研究成果の公表について説明し文書にて同意を得た。なお、本研究は研究者の所属する研究倫理委員会の承認を受けて実

*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1 E-mail: t_shimizu@auhw.ac.jp

施した。

IV. 結果

9名の看護師に対するインタビュー内容を逐語録にお越し、質的に分析した結果、以下の3つのカテゴリーが抽出された。

1. 患者との関係において困っている自分自身への理解の促進。
2. 困っている場面を客観的に振り返ることによる反省的実践の試み。
3. 自分自身が目指す看護の再確認と課題の認識。

これらは3つのカテゴリーの関係は、「患者との関係において困っている自分自身への理解の促進」と「困っている場面を客観的に振り返ることによる反省的実践の試み」が相互に関連をもち、これら2つのカテゴリーを支えられて「自分自身が目指す看護の再確認と課題の認識」が存在していることが明らかになった。

V. 考察

本研究の結果から、支持的側面に注目したカウンセリングの3つの効果が明らかになった。今後は、対象者を拡大することにより、看護臨床スーパービジョンの基礎的な要素をさらに明らかにする必要がある。

また、本研究では、スーパービジョンの支持的側面を抽出する方法として、PAC分析を用いたが、実際に臨床看護師にスーパービジョンを行う際には、どのような効果があるのかを明らかにする必要があると考える。

VI. 文献

- 深澤道子：スーパービジョンとは一人とかかわる職業の基本.現代のエスプリ.5-32.2005.
木下百合子：教育スーパービジョンワーク.大阪教育大学社会科教育学紀要.6.31-40.2008.
黒川昭登：スーパービジョンの理論と実際.岩崎学術出版社.1996
内藤哲雄：PAC分析実施法入門、ナカニシヤ出版.1997.
村田久行：援助者の援助-支持的スーパービジョンの理論と実際.川島書店.2010.

VII. 発表

2015年度内に学会発表の予定。